

## ビング社デディベアも造る

(掲載画像はインターネットより)

1863年、ニュルンベルクのビング兄弟は金属加工業を立ち上げ食器やキッチン用品を製造していた。精巧な金属加工技術でドールハウスや鉄道模型などの玩具産業に手を広げ、1900年代初頭には従業員5千人規模の世界最大の玩具メーカーとなる。

1907年アメリカはじめヨーロッパ各地で流行していた熊のぬいぐるみを発売。流行のモノを真似て造る。今ではベンチマークなどと呼ばれますが売れ筋を訴えられない程度にパクリ。オリジナルのドイツのスタイフ社もコピー品対策として左耳にボタンを付けて差別化を計ります。ビング社もボタンを右耳！に付けるようになったが流石に訴えられメタルタグを肘に付ける事で乗り切る。また得意の機械仕掛けで宙返りするクマなども造り好評を博すがこれも先行者があり裁判に負ける。



コレクターのための図鑑 アマゾンで中古4千円



ギアナ高地のある南米スリナムの切手

ドールハウスがらみで人気の人形もラインアップされていたがケーテ・クルーゼに訴えられ敗訴。大きな所帯を維持するのも大変です。第一次世界大戦中は軍需産業になり、戦後は国土荒廃、大不況そして最大のお得意様であるアメリカでは自国玩具保護育成の法律成立のため関税35%から倍の70%になり万事休す、アメリカで大恐慌が勃発、ナチス台頭でユダヤ資本であったビング社は圧力を徐々に受け創業者の息子の社長シュテファンはイギリスに逃げる。1932年に会社は清算、世はブロック経済に移行して域外の製品に対して高率関税を掛け次の世界大戦へ向かうこととなります。アメリカ・ファーストの先輩格にみえます。



ケーテ・クルーゼのドールハウス



同社の人形製作風景

模写エンジン部門を買い取ったのはツンダップ社で経験を積んだフリッツ・ヒンターマイヤーで1933年キャブレター技術者をスカウトしてキャブレターメーカーとして地位を確立、創業70年の2001年にビング・パワーシステムズと社名変更し現在に至る。

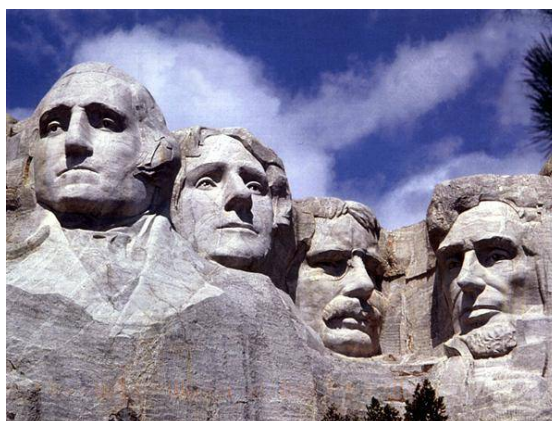
### テディベアの由来

第26代アメリカ大統領(1901-09)のセオドア・ルーズベルトは多くの貴族同様、狩猟が趣味で1902年のあるとき熊狩りに出掛けるも獲物がなく、お付きが事前に生け捕りした小熊を放しお膳立てをした。「瀕死の熊を撃つのはスポーツマン精神にもとる」として撃たなかった。同行の新聞記者が美談として掲載し大統領人気上昇した。

テッド: エドワード、エドウィン、セオドアの短縮形で愛称はTEDI、TEDDYなど



新聞掲載の挿絵「NO!」



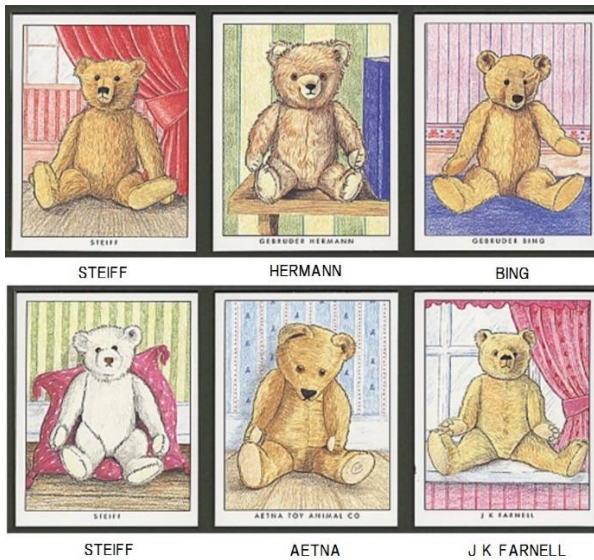
ザ・USAって感じ 右から二番目がテディ



また日本とのかかわりは日露戦争後の調停に尽力しポーツマス条約を成立させた。親日派なのですが日露戦役後は特に日本脅威論者へとなりハワイを日本に獲られる前に併合しようと画策もしたようです。歴代大統領ランキングでもトップクラスでラッシュモア山の大統領彫刻の一人になっています。



テディとテディベア



テディベア・ファミリー



何処からみても新品としか思えませんが、、、 再生産？